

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200134		
法人名	医療法人社団 川越伊藤医院		
事業所名	グループホーム かわごえ		
所在地	三重郡川越町大字豊田299番地1		
自己評価作成日	平成 23年 11月 24日	評価結果市町提出日	平成 24年 1月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472200134&amp;SCD=320&amp;PCD=24">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472200134&amp;SCD=320&amp;PCD=24</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23年 12月 12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内の医療が直ちに利用でき、医療・看護の管理が充実していること。介護者も経験長く、入居者の介護ランクが徐々に高くなったとしても安心して暮らせるよう支援している。入居者も最少数(5人)であり、常時目の届く範囲で職員と入居者とが過ごし、持てる力を失わぬよう支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの同一敷地内に医療機関があり、法人代表の医師が常駐し利用者のかかりつけ医であるという安心感に加え、利用者の定員が5名で、お互いに気遣いできるような家庭的な雰囲気を作り出しており、自分には家庭が二つあると職員が自慢するアットホームな事業所である。また同系の保育所やケアハウスも近くにあり、乳幼児や利用者の友人が尋ねて来るという利点もある。周辺は100%住宅地とは言えないが、車通りの少ない道を通ってプランコのある公園まで行けるので、天気の良い日は散歩を楽しみ、民家の庭の花を眺めたり、地域の人とも交流が来ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとり出来ることが違うが、その人が喜んでやれる得意なことを伸ばし笑顔を増やせるよう家族のように接している。	「家族的な環境の中で、一人ひとりの尊厳を守り…」という理念を掲げており、少人数故の「慣れ」にならないように、相手の立場で行動するよう職員と共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出た時や前庭の草引きしていて声をかけて頂き会話したり「この花きれいでしょ、あげるよ」と株ごと分けてもらったりする。	近くの公園に散歩に出かけた時や、地域のお祭りに参加するなどして地域と交流している。また地域公民館で開催されているサロンにも参加することになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、区長、老人会会長にも出席いただき現状や外部評価結果を説明し意見いただき、理解して頂いている。	行政、地域の区長、家族等の出席の元、会議を開催し、現状報告や情報交換しているが、開催回数も少なくサービス向上に活かせずにいる。	運営推進会議は、事業所からの報告だけでなく、行政を始め地域の情報・意見をいただける場であるので、開催することにより事業所にとってのメリットがあることを再考慮願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の福祉課から研修案内や社協ニュースレターを持ってきて頂いたり、更新認定書類提出時や電話などで分からないことを教えて頂いている。隔月の介護保険サービス事業者間会議に出席し関わりを持っている。	行政からの情報は入ってきており、電話で問い合わせたり報告したりすることも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をしない介護を行っている。自室の窓を開けて外を眺めるのが好きな方に声かけして近くの公園まで散歩したりする。	近隣の3つのグループホームの勉強会に参加したりして、管理者及び職員が共に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむをえない事情の場合は家族に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけひとつでも虐待になり得ることを理解し、一人ひとりの尊厳を守り日々楽しく気持ちよく過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加している。 利用者様の娘さんが法定後見人の手続きをされた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一緒に書類を見ながら丁寧に説明し理解を得ている。ご意見などあればいつでも何でもお話くださるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られる都度、日々のご様子をお伝えしご意見やご要望等を伺っている。	面会のときだけでなく誕生会にもご家族の参加があり、機会を作って意見・要望の吸い上げを行っている。また電話で伺うことも多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、機会を持っている。	毎日の申し送りの時や職員会議にて意見の吸い上げを行っている。車椅子の方が浴槽に入りやすくするため、腰掛台を木造したり工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の勉強会に参加させて頂くこともあり、困った時など意見を聞かせて頂く等取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「始めのうちは陰気くさいとこへ来てしもたと思うたけど、友達も出来て人生の最後に本当に良かったわ」と涙ぐんで話される利用者様もあり、日々楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお気持ちや考え方をお聞きした上で、当ホームの関わり方を相談させて頂き遠慮なく何でも話して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでのご様子や思いを聞かせて頂くことにより、すぐ必要とされる支援について職員間で話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除したりケーキ作りしたり、ボール遊びや体操して共に汗をかいたり笑ったり。懐かしい童謡を歌いながら手遊びしたり昔話をして共に生活を楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のご様子を来訪時や電話でお伝えしご家族の思いを伺いながら、それを他職員にも伝えより良い介護を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前居たケアハウスの方が面会に来てくれたり、行きたい所へ外出出来るようご家族にも働きかけ、ご本人の思いを叶えてもらっている。	同一法人のケアハウスや老健の知人の行き来も多く、関係継続に努力している。家族と外出し実家に寄ったりする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで一つのボールを転がして遊ぶと、仲良くお互いに取りやすいように気配りされている。よくソファで楽しそうに談笑している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所されても挨拶に来られ、今はこんな様子ですと話しに来てくださるご家族もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	こうしたいとはなかなか話して頂けない利用者様も居られるが、これまでの事とか昔話などから思いを汲み取るようにしている。	日々の生活の中での話の中から思いを汲み取るよう努力している。また表情の変化やしぐさも注意しており、無理強いなどしないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや考え方、お人柄など聞かせて頂けるよう働きかけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々ご様子は変化するのでその日その日に合わせて対応し、普段は出来なかったことが出来たりすると喜びです。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で話し合い、食事面では栄養士に相談し、ご本人やご家族の意見を加味して計画し経験豊富なケアマネで集約作成している。	本人・家族の希望に、医師や栄養士の意見も加え、職員全員で検討し作成している。毎月のモニタリング、3ヶ月毎の見直し、変化時の随時の見直しもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づくたび介護経過に記録し、問題が生じた場合はすぐに職員間で話し合う。3カ月ごとに職員間で情報交換話し合い、計画に盛り込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わるご様子や、その日その方に合わせた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園まで道端の草花や季節の移り変わりを感じながら散歩したり、系列の行事に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内の法人の医師がかかりつけ医としてほぼ毎日来訪しているので安心できる。体調により眼科や整形外科等受診することもある。	利用者全員が法人の医師をかかりつけ医としている。医師の住いは同一敷地内で、毎日往診があり、夜中も安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に気付けば即時に看護師に報告し法人医師の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族からご様子を伺っているが病院関係者とは話せていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期の場合どうされたいか意向を伺っている。当ホームでの看取りを希望される場合、指針を説明させて頂き同意のもと、併設法人医師、看護師と協同する。	同一法人内に老健もあり、入居の時はもちろん、重度化に伴い家族と方針の確認をしている。看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本院併設のため、急変発生時すぐに上申し対応できる。誤嚥や詰まった場合のタッピングなど練習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の夜間想定避難訓練を行っている。運営推進会議時、区長さんに協力をお願いしている。	消防署立会いの避難訓練や職員が何分まで職場に来れるかの夜間訓練もしている。避難先も同一敷地内の老健(4階建て)であり、備蓄もしている。	巨大地震とそれに伴う津波が予測されている。特に夜の地震発生時は、職員一人に対応しなければならないので、避難先が近いとはいえ、日頃からの訓練を繰り返されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり考え方が違うのは当然なので一人ひとりの気持ちを大切に、自分の気付かないうちに嫌な思いをさせないように心掛けている。	利用者一人ひとりの気持ちを大切に、気付かないうちに「自分の思い通りにしている」ことがないように職員全員に徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話せる信頼関係を築けるよう日々の暮らしの中で働きかけている。思いを聞かせて頂けるようになってきている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせてご本人のペースを大切に一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ブラシを歯ブラシと間違えて口へ入れようとされる方や、一日に何度も服を着替え夏にセーターを着て出てこられる方もありますが、不都合のないように声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は委託業者がするが、食べやすく刻んだり一緒にこやつを作ったり食器洗いや食器拭きは進んでやって頂いている。	ホームではご飯は炊くが総菜は同一敷地内の老健の厨房で作られており、利用者に合わせて加工したりしている。食事の準備や片付けを出来る利用者が自主的に手伝っている。お好み焼きやおやつ作り等は職員、利用者一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつもきれいに全部食べられる方、おかずを少し食べたらもう手が止まってしまう方など様々だが栄養バランスが取れるよう声かけ勧めている。体調不良で食事が進まない場合、栄養士と相談し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のお茶、朝晩の歯みがき、昼食後の義歯洗浄等声かけや見守り、半介助で口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えない利用者の場合、そぶり等でトイレ誘導を行っている。半介助や見守りし、どうすれば良いのか全く分からない場合のみ指示させて頂いている。	トイレが1つしかないことによるトイレ待ちは、ポータブルを利用することで解決している。自立の出来る時と出来ない時があったり、訴えない人はその時々で判断し、誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取に気をつけ、軽体操や入浴時の腹部マッサージ等で自然排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間の設定はあるが、ご本人の気分や体調に合わせて変更し、気分良く入浴して頂いている。	一人で入るには大きすぎるくらい広い湯槽があり、週2回の入浴と、入浴のない日は足湯をしている。その日の利用者の体調や気分に合わせて入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に、体調に合わせて休みたい時に横になって頂く。夜の就寝もご本人に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効や副作用に目を通し、飲まれたか確認させてもらっている。日々体調の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食の楽しみの為、好きな物をご家族に差し入れて頂くこともある。食器の片付けや洗濯干し等家事を通して自分の役割を見つけてられている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と買い物や食事に出かけられたり、気候の良い日には職員と近くの公園まで散歩してブランコに乗ったり草花を摘んできて花瓶に生けたりする。	天気の良い日はブランコ等がある近くの公園に出るのが散歩コースであり、通り道の人家の庭の花を眺めながら、地域の人とも会話している。季節ごとの花見や家族と買物や食事に出かける人もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金の管理はしておらず、今は所持されている利用者の方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	貼り絵をして暑中見舞いの葉書を出した。そろそろ年賀状の絵柄を一緒に考えて書いてゆきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁飾りを変え一緒に季節の折り紙や飾り付けをしたり、鉢花の世話をされ楽しまれている。	リビングにはテレビやソファがあり、真ん中の大きなテーブルでは、利用者、職員みんなが集まってゲームをしている。壁際には季節の花や、金魚鉢が小さく見えるくらい大きな金魚が泳いでおり、手作りの壁飾りも居心地の良さを感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間でも一人ひとりが好きな事が出来るようにしている。ソファに並んでTVを観たり、服のボタンがずれていたら直してあげたり談笑され仲良く過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と一緒に写した思い出の写真を飾られたり毎日仏壇に手を合わせたり、ご本人が必要なものを持ってこられ使いやすいように置いてある。	家具の配置や壁飾り等は利用者と相談して行っており、仏壇持込の利用者もおられる。室内は広く洗面台もあるがゆったり感があり清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手を貸しすぎないよう見守り、これは出来ない決め付けず、やって頂く事により意外な力を発見したりする。		